

いつも一緒 富山のペットたち

今年も狂犬病予防注射の季節がやってきました。日本では狂犬病予防法により、管轄市町村への犬の登録（生涯に1度）と狂犬病の予防注射（毎年1回）の接種義務があります。



西尾 洋介
ハニーアニマルクリニック院長
(富山市婦中町広田)

950年以前は、国内では多くの犬が狂犬病と診断され、ヒトも狂犬病に感染し、ほぼ100%死亡していました。狂犬病予防法の施行によって、犬の登録、予防注射、野犬などの抑留が徹底されるようになり、狂犬病を撲滅することができました。

免疫が低下

子犬や子猫は生まれてからしばらくは母犬、母猫から譲り受けた移行抗体（免疫）によって感染症から守られています。しかしこの免疫は少しずつ低下し、病気に対して無防備な状態になっていきます。感染症のワクチンを適切な時期に適切な回数

感染症対策

接種することにより、再びこの免疫を獲得し、感染症から身を守る事ができるようになります。最近ではペットホテル、トリミングといった施設での病気の伝染を防ぐ「マナー」として、ワクチン接種を義務付けることも多くなっています。

ワクチンで予防徹底

- 犬ジステンパー
- 犬伝染性肝炎(A1)
- 犬伝染性咽頭気管炎(A2)
- 犬パラインフルエンザ
- 犬パルボウイルス感染症
- 犬コロナウイルス感染症
- 犬レプトスピラ感染症(イクテロヘモラジ)
- 犬レプトスピラ感染症(カニコロ)
- 犬レプトスピラ感染症(ハブドマティス)
- 猫汎白血球減少症
- 猫ウイルス性鼻気管炎
- 猫カリシウイルス感染症
- 猫白血病ウイルス感染症
- 猫クラミジア感染症
- 猫免疫不全ウイルス感染症



フスタイルに合わせ、何をどの時期に何回接種することが適当か、動物病院で相談するとういでしょう。

ノミにも注意

ノミは犬や猫の毛の中に潜み、血を吸って生きている寄生虫です。犬や猫がノミに刺されると激しいかゆみによる精神的

ストレスを受けます。その他にも、貧血、細菌の二次感染、瓜実条虫(サナタムシ)の媒介などがああります。

ノミの被害は動物だけではなく、ヒトがノミに刺されることにより、かゆみや水ぶくれを起し、ひどい場合にはアレルギーを起すこともあります。また、猫ひっかき病は、ヒトに

トが猫に引っかかれたり、かまれたりすると、その部位が化膿したりリンパ節が腫れ、発熱、頭痛などの症状が現れる感染症です。原因となるバルトネラ・ヘンセルという菌をノミが猫から猫へと運びます。

マダニは散歩コースの茂みからペットを狙っています。マダニはペットのみならず、ヒトに対しても貧血や皮膚病の原因になるだけでなく、多くの病原体を媒介します。

「いつも一緒 富山のペットたちは毎月第1木曜に掲載します。」

家族の一員を病気にさせないため、大切な家族を守ってあげたいですね。

消化器症状(食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛)といった代表的な症状のほか、頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などが見られます。死亡例も多数報告されています。ノミやマダニの寄生は動物だけの問題ではないのです。内服薬や滴下薬によって確実な駆除、予防が重要です。



狂犬病の予防注射は毎年1回、接種しなければならぬ。
ハニーアニマルクリニック